

1. 施策1 / 地域資源・アクティビティの磨き上げ

本市で体験可能なアウトドアアクティビティを整理し、ガイドツアー商品として展開できる可能性があるものは、商品化を目指して磨き上げていきます。ガイドの同行無しでも楽しむことができるアクティビティに関しては、体験可能なフィールドの紹介やモデルとなるルートを設定することで、市内での滞在時間を延ばしてもらうことにつなげていきます。モデルルートに関しては、ジャパンエコトラックへの登録を見据えた形で検討を進めます。

また、近隣市町との連携により、各地域の魅力ある資源を相互に結びつけることで、個々の資源の魅力を相乗・増強させることができます。圏域内でできるだけ長く回遊してもらい、滞在時間を延ばしてもらえるような広域ルートの設定に関して、近隣市町との調整、協議を図っていく必要があります。



<本市のアウトドアツーリズムにおけるモデルルート案>

【本市のアウトドアツーリズムにおけるモデルルート案】

	ルート・フィールド名	アクティビティ	エリア	詳細
①	焼石岳登山 中沼ルート	登山・トレッキング	奥州湖周辺エリア	P.20
②	焼石岳登山 つぶ沼ルート	登山・トレッキング	奥州湖周辺エリア	P.21
③	束稲山登山ルート	登山・トレッキング	市街地周辺エリア	P.22
④	種山高原トレッキングルート	登山・トレッキング	種山高原周辺エリア	P.23
⑤	仙北街道 大胡桃山トレッキングルート	登山・トレッキング	奥州湖周辺エリア	P.24
⑥	胆沢平野「水土里の皆廊」サイクリングルート	サイクリング	奥州湖周辺エリア、市街地周辺エリア	P.26
⑦	奥州・平泉 歴史探訪サイクリングルート	サイクリング	市街地周辺エリア、平泉町	P.27
⑧	仙北街道サイクリングルート	サイクリング	市街地周辺エリア、奥州湖周辺エリア	P.28
⑨	束稲山ヒルクライムルート	サイクリング	市街地周辺エリア、一関市、平泉町	P.29
⑩	種山高原ヒルクライムルート	サイクリング	市街地周辺エリア、種山高原周辺エリア	P.30
⑪	阿原山高原ヒルクライムルート	サイクリング	市街地周辺エリア、種山高原周辺エリア	P.31
⑫	焼石連峰ビーチラインサイクリングルート	サイクリング	奥州湖周辺エリア	P.32
⑬	栗駒焼石ほっとラインサイクリングルート	サイクリング	奥州湖周辺エリア、市街地周辺エリア、一関市、平泉町	P.33
⑭	奥州湖・錦秋湖サイクリングルート	サイクリング	奥州湖周辺エリア、北上市、金ヶ崎町、西和賀町	P.34
⑮	奥州湖パドリングフィールド	パドルスポーツ	奥州湖周辺エリア	P.36
⑯	馬留池パドリングフィールド	パドルスポーツ	奥州湖周辺エリア	P.36
⑰	胆沢川パドリングフィールド	パドルスポーツ	奥州湖周辺エリア	P.36
⑱	奥州湖展望スノーシュールート	スノーシュー	奥州湖周辺エリア	P.38
⑲	種山高原スノーシュールート	スノーシュー	種山高原周辺エリア	P.38

1-1. 登山&トレッキング

1) 焼石岳登山ルート

焼石岳は栗駒国立公園の一部で、「日本二百名山」や「花の百名山」に選定されていることもあり、シーズン中には全国各地から登山客が訪れます。焼石岳に関する登山情報は、本市と秋田県横手市、東成瀬村で構成される「焼石観光開発連絡協議会」のWEB サイトや、岩手県のWEB サイトにおける「自然公園特派員だより」等で、随時更新されています。登山ルートは幾つかありますが、奥州市を起点としたルートとしては中沼ルート、つぶ沼ルートの2つが一般的です。モデルルートでは、眺望が良い東焼石岳とお花畑が広がる姥石平を周遊するルートとします。



< 焼石観光開発連絡協議会のWEB サイト >



< 焼石観光開発連絡協議会発行のパンフレット >

1-1) 焼石岳登山 中沼ルート

【経路】 中沼登山口→銀明水→焼石岳→東焼石岳→姥石平→中沼登山口

【距離】 14.6km 【最大標高差】 826m 【獲得標高】 961m 【コースタイム】 7時間

【レベル】 中級 【シーズン】 春～秋 【エリア】 奥州湖周辺エリア

【特徴】

中沼登山口は焼石岳に最短距離で登ることができるため人気があります。ルートには湖沼や湿原が広がり、さまざまな高山植物や湿原植物が咲きます。山頂直下にある姥石平は広大な湿原地帯で、夏にはハクサンイチゲなど、満開のお花畑の中を歩くことができます。山頂からの眺めも素晴らしく、胆沢平野が一望できるほか、天候条件が良ければ、遠く鳥海山を望むこともできます。7月頃までは銀明水から上に雪渓が残っており、残雪の白さと新緑のブナ林の緑のコントラストを楽しむことができ、秋は美しい紅葉を見ることができ、シーズンを通して楽しめるルートです。



【課題・改善点】

駐車場までは未舗装の林道を5kmほど走行する必要があり、駐車可能台数は40台程度と限られているため、駐車場の空車情報が林道へ入る前に入手できると利便性が高まります。登山のハイシーズンにおけるシャトルバスの運行、電動アシスト付きのマウンテンバイク(E-BIKE)レンタルによるアクセスの向上など、試験的な運用も踏まえ検討を図る必要があります。また、中沼登山口は携帯電話の電波状況も良くないため、改善が望まれます。トイレは登山口と銀明水避難小屋にあります。県自然保護課では「焼石岳マナーガイド」で環境保全のために携帯トイレの持参を推奨していますので、市においても、携帯トイレの使用について啓蒙を図っていく必要があります(※トイレの整備に関してはP.55～参照)。登山道はよく整備されており、雪渓が残る時期を除けば歩きやすい道ですが、川沿いの道でぬかるみや渡渉ポイントが多く、部分的に木道が荒廃していることもあるため、シーズンを通して注意喚起が必要です。



1-2) 焼石岳登山 つぶ沼ルート

【経路】 つぶ沼駐車場→石沼→銀明水→焼石岳→東焼石岳→姥石平→つぶ沼駐車場

【距離】 20.1km 【最大標高差】 1,109m 【獲得標高】 1,331m

【コースタイム】 8時間30分 【レベル】 上級 【シーズン】 春～秋

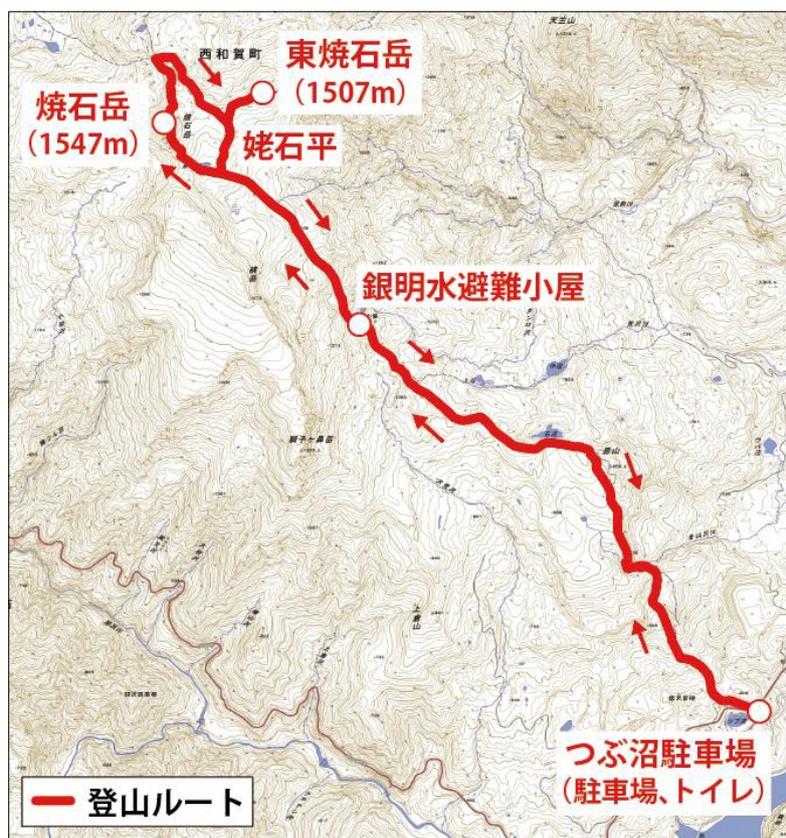
【エリア】 奥州湖周辺エリア

【特徴】

登山口近くに広い駐車場があり便利ですが、中沼ルートよりも距離が長くなるため、体力に自信がある方向けのルートとなります。中沼ルートとの分岐まではブナの原生林が続き、新緑や紅葉の時期におすすめです。

【課題・改善点】

トイレは登山口と銀明水避難小屋にあります。県自然保護課では「焼石岳マナーガイド」で環境保全のために携帯トイレの持参を推奨していますので、市においても、携帯トイレの使用について啓蒙を図っていく必要があります（※トイレの整備に関しては P.55～参照）。登山道はよく整備されており、雪渓が残る時期を除けば歩きやすい道ですが、川沿いの道でぬかるみや渡渉ポイントが多く、部分的に木道が荒廃していることもあるため、シーズンを通して注意喚起が必要です。



2) 東稲山登山ルート

【経路】 月山憩いの広場→経塚山→音羽山→月山憩いの広場

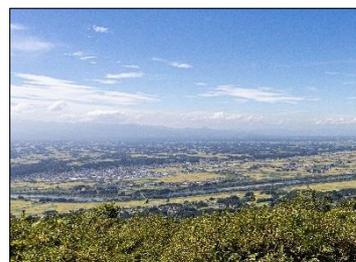
【距離】 4.0km 【最大標高差】 236m 【獲得標高】 324m

【コースタイム】 1時間30分 【レベル】 初級 【シーズン】 春～秋

【エリア】 市街地周辺エリア

【特徴】

本市と平泉町、一関市の境界に位置する東稲山群（経塚山・音羽山）の登山ルートです。経塚山をはじめ奥州藤原氏と関連が深い山群で、往時の名残を感じることができます。東稲山の頂上はテレビ局の鉄塔などが乱立しており眺望も無いため、モデルルートでは月山憩いの広場を起点に、経塚山と音羽山の2つの山を周遊します。音羽山の頂上は開けており、奥羽山脈や胆沢扇状地、北上川の流れを望むことができます。



東稲山の麓に広がる東稲山麓地域は、重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域として、2023年1月に日本農業遺産に認定されたこともあり、今後注目が期待されるフィールドです。

【課題・改善点】

ルートは分かりやすいものの、設置されている道標や案内版の一部で状態が良くない（劣化して視認性が悪い）ものが見られるため、改修が望まれます（※標識の整備に関してはP.44～参照）。



3) 種山高原トレッキングルート

【経路】 せせらぎの広場→物見山→種山高原星座の森→せせらぎの広場

【距離】 7.3km 【最大標高差】 258m 【獲得標高】 312m

【コースタイム】 2時間30分 【レベル】 初級 【シーズン】 春～秋

【エリア】 種山高原周辺エリア

【特徴】

種山高原は、本市と住田町、遠野市にまたがる物見山を中心とした高原地帯です。モデルルートでは、種山高原での森林浴と物見山頂上からの360度の眺望を楽しむことができます。また、詩人・童話作家である宮沢賢治がこよなく愛し、作品の源ともなった「イーハトーブの風景地(種山ヶ原)」は、国の名勝として指定されています。



【課題・改善点】

ルートは分かりやすいものの、設置されている道標や案内版の一部で状態が良くない(劣化して視認性が悪い)ものが見られるため、改修や撤去が望まれます(※標識の整備に関してはP.44~参照)。



4) 仙北街道 大胡桃山トレッキングルート

【経路】 おろせ広場→仙北街道・下嵐江入口→小胡桃山→大胡桃山→おろせ広場

【距離】 14.6km 【最大標高差】 530m 【獲得標高】 848m 【レベル】 中級

【シーズン】 春～秋 【エリア】 奥州湖周辺エリア

【特徴】

古代から中世にかけて、岩手県南と秋田県とを結ぶ主要な道であった仙北街道を辿るルートです。下嵐江から東成瀬村へ至る 24km の区間は、今もほぼ昔のまま現存しており、2019 年には文化庁の歴史の道百選に選定されています。秋田県側の起点までの林道は未舗装で路面状態の悪い道が 6km ほど続くため、ワンウェイのルートではなく、仙北街道随一の展望場所である大胡桃山で折り返して下嵐江に戻るルートをモデルルートとします。



【課題・改善点】

仙北街道の踏査・保全活動は、本市の「胆沢古道の会」や東成瀬村の「東成瀬村仙北道を考える会」が中心となって、それぞれ活動しています。

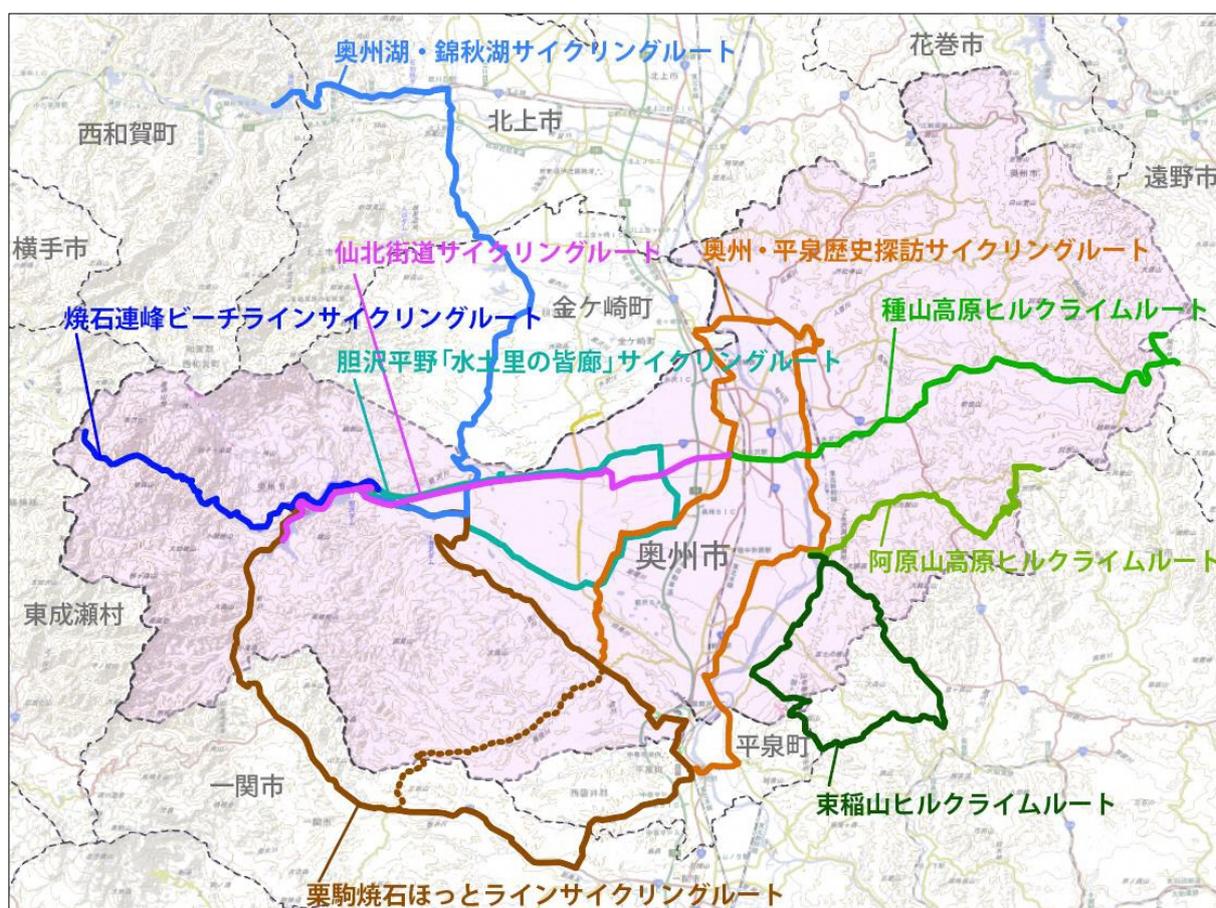
今後、活用の検討にあたっては、入山者が、十分に安全に配慮するとともに、歴史的な背景だけでなく、ブナ原生林などの貴重な生態系を有する場でもあることから、生態系の保全にも配慮する必要があります。



1-2. サイクリング

自動車ではなく自転車を移動手段としたサイクリングであれば、ストップ＆ゴーの効率が良く、市内の地域資源を満喫しながらアクティビティを楽しむことが可能です。ただ、市内を広く周遊するとなると機動力のあるスポーツサイクルが必要です。本市では現状スポーツサイクルのレンタルサービスを展開していませんが、来訪者が気軽にサイクリングを楽しめるようにレンタルサービスの展開を検討する必要があります。本市の広大な面積と起伏に富んだ地形や路面に合わせ、電動アシスト機能付きのモデルやマウンテンバイクなど、実際の利用場面を想定した車種の導入を検討します（※レンタサイクルの整備についてはP.66～参照）。

県において広域サイクリングルート of 検討が進められる中、本市では、定住自立圏構想を推進する3市町とサイクリングルート of 設定など広域連携の検討を進めています。また、本市と一関市、平泉町をまたぐ広域サイクリングイベント「栗駒焼石ほっとライド」が、地元有志や関係団体が構成された実行委員会により開催されています。このように、市町村の枠にとられない広域でのサイクリングなどアウトドアツーリズムを展開することで、地域全体のブランド力向上、周遊性の向上、交流人口の増加が期待できます。



<本市におけるサイクリングのモデルルート案>

1) 胆沢平野「水土里の皆廊」サイクリングルート

【経路】 奥州湖交流館→→穴山用水堰 武兵衛穴出口→胆沢ダム管理支所→寿安堰旧取水口
→円筒分水工 徳水園→葦名堰（二の台堰）→奥州湖交流館

【距離】 45.6km 【最大標高差】 290m 【獲得標高】 490m

【コースタイム】 3時間30分 【レベル】 中級 【シーズン】 春～秋

【エリア】 奥州湖周辺エリア

【特徴】

胆沢平野管内の農業水利施設や地域の水利歴史遺産、産直等を活用した農村振興として胆沢平野土地改良区が企画している「水土里の皆廊」を参考に、サイクリングで見所をめぐるルートです。



【課題・改善点】

ルートの大部分は見通しの良い道ですが、一部見通しの悪い場所もあり注意が必要です。自転車用の道路整備（路面標示や標識の設置）を行うことで、ルートが分かりやすくなるとともに、地域住民やドライバーへの注意喚起の効果が期待できます（標識の整備に関してはP.44～参照）。また、ルート上にある観光施設や飲食店などを受け入れ協力店として、バイクラックや自転車用工具を設置することで、来訪者の利便性を高めていく必要があります。



2) 奥州・平泉 歴史探訪サイクリングルート

【経路】 Z プラザアテルイ→長者ケ原廃寺跡→道の駅平泉→白鳥館遺跡→館山公園
→胆沢城跡→Z プラザアテルイ

【距離】 73.8km 【最大標高差】 145m 【獲得標高】 645m 【コースタイム】 6 時間

【レベル】 中級 【シーズン】 春～秋 【エリア】 市街地周辺エリア、平泉町

【特徴】

市街地を拠点に、長者ケ原廃寺跡や白鳥館遺跡など奥州藤原氏ゆかりの史跡をはじめ、本市に点在する歴史文化資源をめぐるルートです。

【課題・改善点】

市街地など交通量の多い場所を走行するため注意が必要です。自転車用の道路整備（路面標示や標識の設置）を行うことで、ルートが分かりやすくなるとともに、地域住民やドライバーへの注意喚起の効果が期待できます（※標識の整備に関しては P.44～参照）。また、ルート上にある観光施設や飲食店などを受け入れ協力店として、バイクラックや自転車用工具を設置することで、来訪者の利便性を高めていく必要があります。ルートの一部は平泉町を通るため、モデルルートとして設定する際は、平泉町との調整、協議を図る必要があります。



3) 仙北街道サイクリングルート

【経路】 Zプラザアテルイ→奥州湖交流館→おろせ広場→Zプラザアテルイ

【距離】 58.2km 【最大標高差】 388m 【獲得標高】 625m

【コースタイム】 4時間20分 【レベル】 中級 【シーズン】 春～秋

【エリア】 市街地周辺エリア、奥州湖周辺エリア

【特徴】

水沢市街地からおろせ広場まで、仙北街道の道のりを辿るサイクリングルートです。自転車で走行できない部分は迂回して走行します。ルート上には一里塚や石碑などが残っており、当時の名残を感じることができます。おろせ広場で「仙北街道 大胡桃山トレッキングルート (P.24 参照)」に接続します。

【課題・改善点】

自転車用の道路整備（路面標示や標識の設置）を行うことで、ルートが分かりやすくなるとともに、地域住民やドライバーへの注意喚起の効果が期待できます（標識の整備に関しては P.44～参照）。また、ルート上にある観光施設や飲食店などを受け入れ協力店として、バイクラックや自転車用工具を設置することで、来訪者の利便性を高めていく必要があります。



4) 東稲山ヒルクライムルート

【経路】 道の駅みずさわ→東稲山→寺の駅月江庵（正法寺）→黒石寺→道の駅みずさわ

【距離】 38.7km 【最大標高差】 481m 【獲得標高】 1,107m

【コースタイム】 3時間20分 【レベル】 上級 【シーズン】 春～秋

【エリア】 市街地周辺エリア、平泉町、一関市

【特徴】

ルート前半は東稲山麓地域から東稲山まで漕ぎ上がるヒルクライムです。ヒルクライム終盤は胆沢平野や焼石連峰の眺望が広がりますが、音羽山登山口から200mほどの距離にある頂上まで行けば、さらに開けた景色を望むことができます。ルート後半は一関方面へ下り、寺の駅月江庵（いわてサイクルステーション登録施設）や黒石寺を経由して道の駅みずさわに戻ります。

【課題・改善点】

県道237号（長坂東稲前沢線）は道幅が狭い場所や見通しの悪い場所があるため注意が必要です。自転車用の道路整備（路面標示や標識の設置）を行うことで、ルートが分かりやすくなるとともに、地域住民やドライバーへの注意喚起の効果が期待できます（標識の整備に関してはP.44～参照）。また、ルート上にある観光施設や飲食店などを受け入れ協力店として、バイクラックや自転車用工具を設置することで、来訪者の利便性を高めていく必要があります。



5) 種山高原ヒルクライムルート

【経路】 Z プラザアテルイ→国道 397 号→種山高原星座の森→Z プラザアテルイ

【距離】 61.4km 【最大標高差】 703m 【獲得標高】 1,106m

【コースタイム】 5 時間 【レベル】 上級 【シーズン】 春～秋

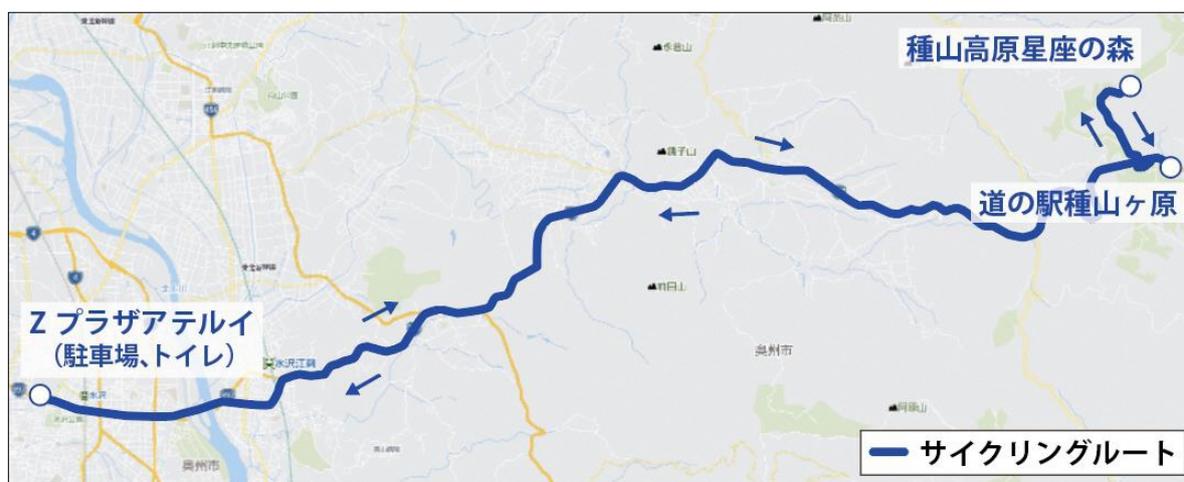
【エリア】 市街地周辺エリア、種山高原周辺エリア

【特徴】

市街地を拠点に、江刺の田園地帯を抜け、種山高原を「種山高原星座の森」まで漕ぎ上がるヒルクライムルートです。市街地から田園地帯、高原地帯と景色の変化が楽しめます。

【課題・改善点】

交通量の多い場所やトンネル、道幅が狭い場所や見通しの悪い場所があり注意が必要です。自転車用の道路整備（路面標示や標識の設置）を行うことで、ルートが分かりやすくなるとともに、地域住民やドライバーへの注意喚起の効果が期待できます（標識の整備に関しては P.44～参照）。また、ルート上にある観光施設や飲食店などを受け入れ協力店として、バイクラックや自転車用工具を設置することで、来訪者の利便性を高めていく必要があります。



6) 阿原山高原ヒルクライムルート

【経路】 道の駅みずさわ→阿原山高原展望所→道の駅みずさわ

【距離】 40.8km 【最大標高差】 656m 【獲得標高】 939m 【コースタイム】 3 時間

【レベル】 上級 【シーズン】 春～秋 【エリア】 市街地周辺エリア、種山高原周辺エリア

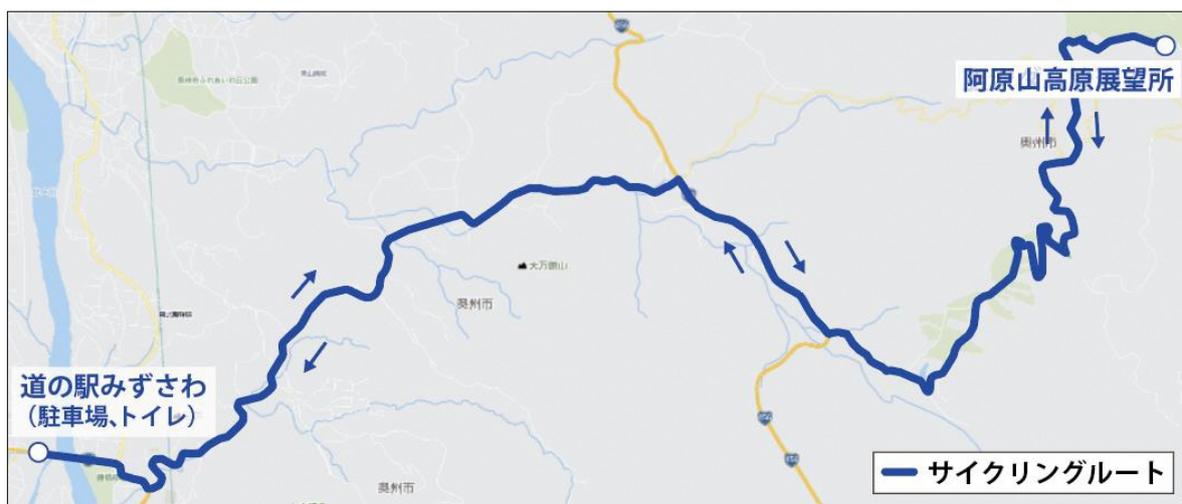
【特徴】

道の駅みずさわを拠点に、阿原山高原まで漕ぎ上がるヒルクライムルートです。田園地帯から高原地帯へと景色の変化が楽しめます。



【課題・改善点】

国道456号を抜けた先から阿原山高原までは道幅が狭い場所や見通しの悪い場所があり注意が必要です。自転車用の道路整備（路面標示や標識の設置）を行うことで、ルートが分かりやすくなるとともに、地域住民やドライバーへの注意喚起の効果が期待できます（標識の整備に関してはP.44～参照）。また、ルート上にある観光施設や飲食店などを受け入れ協力店として、バイクラックや自転車用工具を設置することで、来訪者の利便性を高めていく必要があります。



7) 焼石連峰ビーチライン サイクリングルート

【経路】 奥州湖交流館→焼石連峰ビーチライン→奥州湖交流館

【距離】 46.4km 【最大標高差】 535m 【獲得標高】 869m 【コースタイム】 3 時間

【レベル】 上級 【シーズン】 春～秋 【エリア】 奥州湖周辺エリア

【特徴】

奥州湖交流館を起点に県境の大森山トンネル手前（大森橋）まで漕ぎ上がるルートです。湖畔沿いの景色や焼石連峰ビーチラインのブナ原生林など景色の変化が楽しめます。特に秋の紅葉シーズンの景色は見事です。



【課題・改善点】

それほど交通量は多くない道路ですが、紅葉シーズンは交通量が増えるため注意が必要です。また、道幅の狭い場所や見通しの悪い場所があり注意が必要です。自転車用の道路整備（路面標示や標識の設置）を行うことで、ルートが分かりやすくなるとともに、地域住民やドライバーへの注意喚起の効果が期待できます（標識の整備に関してはP.44～参照）。なお、土砂崩れが起こりやすい箇所もあるなど、ルート設定における課題もあります。



8) 栗駒焼石ほっとライン サイクリングルート

【経路】 奥州湖交流館→栗駒焼石ほっとライン→一関市→平泉町→奥州湖交流館

【距離】 78.5km 【最大標高差】 486m 【獲得標高】 1053m

【コースタイム】 5時間30分 【レベル】 上級 【シーズン】 春～秋

【エリア】 奥州湖周辺エリア、市街地周辺エリア、一関市、平泉町

【特徴】

サイクリングイベント「栗駒焼石ほっとライド」のコースを参考に、奥州湖交流館を発着としたルートです。奥州湖周辺の自然景観と世界遺産「平泉」の構成資産・関連資産をめぐるルートで、自然と歴史・文化の両方を満喫できます。

体力に自信の無い方や時間が無い方は、一関市の骨寺村荘園交流館の手前で衣川を抜けて戻るショートコースも選択可能です。ショートコースでは、いわてサイクルステーションに登録されている南股地区センターを経由します。

【課題・改善点】

自転車用の道路整備（路面標示や標識の設置）を行うことで、ルートが分かりやすくなるとともに、地域住民やドライバーへの注意喚起の効果が期待できます（標識の整備に関しては P.44～参照）。また、ルート上にある観光施設や飲食店などを受け入れ協力店として、バイクラックや自転車用工具を設置することで、来訪者の利便性を高めていく必要があります。広域ルートのため、モデルルートとして設定する際は、関連する一関市、平泉町との調整、協議を図る必要があります。



9) 奥州湖・錦秋湖サイクリングルート

【経路】 奥州湖交流館→金ヶ崎町→北上市→西和賀町→道の駅錦秋湖→奥州湖交流館

【距離】 86.4km 【最大標高差】 165m 【獲得標高】 1,202m

【コースタイム】 6時間30分 【レベル】 上級 【シーズン】 春～秋

【エリア】 奥州湖周辺エリア、金ヶ崎町、北上市、西和賀町

【特徴】

奥州湖交流館を起点に、金ヶ崎町、北上市を経由し、道の駅錦秋湖（西和賀町）へ至るルートです。本市を含む定住自立圏4市町が設定するサイクリングルートに接続しており、複数のルートを組み合わせて楽しむことが可能です。

【課題・改善点】

道の駅錦秋湖付近はトンネルやスノーシェッド・シェルターが連続する区間があるため、走行には注意が必要です。自転車用の道路整備（路面標示や標識の設置）を行うことで、ルートが分かりやすくなるとともに、地域住民やドライバーへの注意喚起の効果が期待できます（標識の整備に関してはP.44～参照）。また、ルート上にある観光施設や飲食店などを受け入れ協力店として、バイクラックや自転車用工具を設置することで、来訪者の利便性を高めていく必要があります。広域ルートのため、モデルルートとして設定する際は、関連する北上市、金ヶ崎町、西和賀町との調整、協議を図る必要があります。



1-3. パドルスポーツ

本市で体験できる代表的なアウトドアアクティビティとして、奥州湖周辺エリアにおけるラフティングやカヌー、SUP等のパドルスポーツがあげられます。初心者向けの馬留池での体験をはじめ、焼石連峰や猿岩の絶景が見事な奥州湖でのツーリング、激流下りが楽しめる胆沢川など、バリエーションに富んだフィールドで様々な楽しみ方が可能です。

現状、奥州湖交流館や本市内外の事業者が胆沢川でのラフティングツアーや、馬留池・奥州湖でのカヤック・SUP ツアーを展開しています。基本的には現場に詳しく安全管理ができるガイド同行のツアーを推奨しますが、ガイドツアーではなく個人で楽しめる方向けにも安全啓蒙や注意喚起を図っていく必要があります。



1) 馬留池パドリングフィールド

【特徴】

波や水の流れがほとんどなく、フィールドも一望できる広さのため、初心者が安心・安全にカヌーやSUPを楽しむことが可能です。



2) 奥州湖パドリングフィールド

【特徴】

おろせ広場からエントリー（出艇）した後、猿岩を眺めながら胆沢ダム方面へ漕いでいくルートや、焼石連峰の山並みを眺めながら前川支流方面へ漕いでいくルートがあります。春は残雪の焼石連峰、夏は新緑、秋は紅葉と、季節毎に違った景色が楽しめます。湯水でダム水位が下がった際は、水没した旧石渚ダムや猿岩隧道が出現し、また違った景色を楽しむことができます。



3) 胆沢川パドリングフィールド

【特徴】

奥州いさわカヌー競技場を起点としたラフティングツアーでも使用されているフィールドです。急流下りに適したホワイトウォーターカヤックのほか、安定性が高いパックラフトやダッキー等のインフレーターカヤック（空気で膨らませるカヤック）で川下りを楽しむことができます。



1-4. スノーシュー

本市では冬場の積雪シーズンにはスキーやスノーシューを楽しむことができます。特に、難易度が低く誰でも親しみやすいスノーシューは、冬場のアクティビティ入門として最適です。スノーシューはスキーとは違って、特別な練習が必要なく、積雪があればどこでも気軽に楽しむことができるアクティビティです。また、大掛かりな設備投資や整備の必要がなく、最低限のレンタル備品を用意することで、誰でも気軽にスノーアクティビティを楽しむことが可能となります。

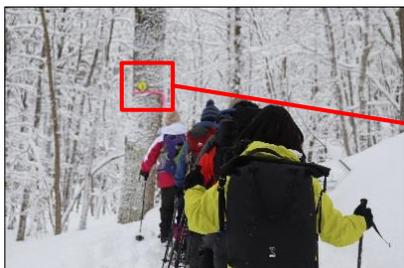
スノーシューは気軽に始められるアクティビティですが、冬山に入るという意識を持って、急な天候変化などに注意して備える必要があります。種山高原は、ルート上の分岐に道標があり分かりやすくなっていますが、積雪量が多い際や吹雪いている際も視認性が高い道標が整備されると、より安心安全に楽しむことが可能となります。また、雪山経験のない初心者向けに、ガイドサービスができる人材を確保し、積雪期登山における注意喚起のパンフレット制作や講習会の実施などを通して、安全登山に対する啓蒙活動にも取り組む必要があります。

<参考事例/積雪期登山における安全啓蒙、標識整備>



山岳雑誌「岳人」監修による雪山登山装備ガイドパンフレット（無料配布）

雪山に必要な装備の紹介やチェックリスト、雪山登山講習会や保険の案内等の情報を掲載



ジャパンエコトラック登録エリア「鳴瀬川・薬菜山（宮城県）」のスノーシュールート看板
ルート上に積雪時でも認識しやすい色・デザインの看板を視認しやすい高さに設置

1) 奥州湖展望スノーシュールート

【距離】 5.8km 【最大標高差】 236m 【獲得標高】 247m

【コースタイム】 3時間 【エリア】 奥州湖周辺エリア

【特徴】

奥州湖交流館を起点に奥州湖眺望台までスノーシューハイクするルートです。分岐がほとんどなく分かりやすいルートのため初心者でも気軽にチャレンジできます。眺望台からは雪の焼石連峰や胆沢平野の絶景を望むことができます。



2) 種山高原スノーシュールート

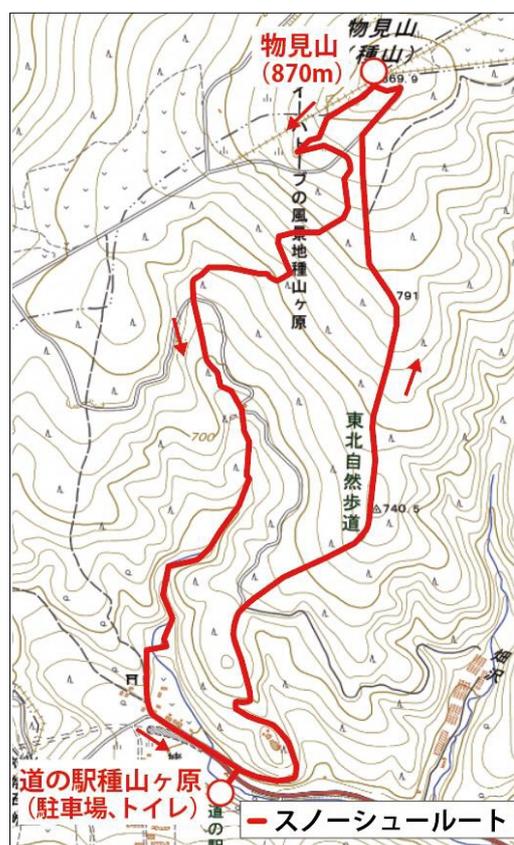
【距離】 6.7km 【最大標高差】 273m

【獲得標高】 300m 【コースタイム】 3時間 30分

【エリア】 種山高原周辺エリア

【特徴】

道の駅種山ヶ原を起点に種山ヶ原森林公園を抜け、物見山頂上までスノーシューハイクするルートです。ルートが多方面に分岐しており、登りと下りで別のルートを選択するなど、バリエーションが楽しめるフィールドです。



1-5. 複合的なルート（SEA TO SUMMIT ルート）

「SEA TO SUMMIT（シートゥーサミット）※」は、海（川・湖）から山までのフィールドを全て活用した環境スポーツイベントです。本市では、奥州湖においてパドルスポーツを体験することができ、奥州湖から近い場所に焼石岳の登山口もあるため、「SEA TO SUMMIT」開催の可能性があります。

※「SEA TO SUUMMIT」の詳細については別冊参考資料P.12～参照。

例) 奥州湖・焼石岳 SEA TO SUMMIT ルート

【距離】 31.6km（パドリング 4km、サイクリング 18.8km、トレッキング 8.8km）

【最大標高差】 1,227m 【獲得標高】 1,585m 【コースタイム】 7 時間

【レベル】 上級者 【シーズン】 夏、秋

【特徴】

おろせ広場を起点にパドルスポーツをスタートし、石淵ダム広場辺りで折り返します。サイクリングは奥州湖交流館まで湖畔沿いを走り、つぶ沼登山口まで戻ってきます。その後は焼石岳の山頂を目指します。既存の大会と比べると、登山の部分がハードなため、体力に自信がある上級者向けのルートとなります。残雪が無くなった時期から紅葉までの間がイベント開催に適しています。

【課題・改善点】

イベントとして開催するためには、近隣の宿泊施設等からパドリングルートのスタート地点となるおろせ広場までの移動手段の確保など、300名規模の人数を受け入れるための環境整備が必要となります。また、イベント時だけでなく、365日いつでもルートを楽しめるような環境整備（フィールド整備、受け入れ体制の整備）が必要です。



1-6. その他のアクティビティ、フィールド

1) 沢登り (シャワークライミング)

夏場はラフティングやカヌー、SUPなどのパドルスポーツが人気ですが、奥州湖へ流れ込む胆沢川や尿前川の源流部の沢では、沢登り (シャワークライミング) を楽しむことができます。沢登りといっても、本格的な装備で沢の中を遡行するものだけとは限らず、傾斜が緩やかな沢や沢沿いの登山道を歩くだけでも、澄んだ水の流れや豪快な滝、本市ならではの動植物、地形などを楽しむことができます。体験プログラムとしては、特別な技術を必要とせずに、誰でも気軽に参加できる「沢歩き」イベントとしての展開が期待できます。

例) 胆沢川源流部～スギヤチ沢

【特徴】

焼石連峰ピーチラインの県境トンネル手前に駐車スペースがあり、そこから川まで歩いて下りることができます。水深が浅く比較的単調な道が続きますが、景色が開けているため、歩いていて気持ち良いフィールドです。落差が小さい滝を登ったり、滝壺で泳いだり飛び込んだりできるなど、軽い冒険的要素もあります。



【課題・改善点】

初心者向けの歩きやすいルートとはいえ、万一の事態に備えた装備は用意する必要があります。レンタル用のヘルメットやPFD (ライフジャケット) などの安全装備のほか、箱眼鏡やシュノーケルを用意することで、生物観察を組み合わせたイベント展開の幅が広がります。



2) マウンテンバイク

マウンテンバイクは未舗装路等、路面状況が悪い道を走行するのに適した自転車です。ロードバイクに比べてスピードを出しにくく、路面の変化を感じながらゆっくりとサイクリングを楽しむことができます。特に、林道や未舗装路を走ることによって、自然をより身近に感じることができる点が魅力です。



本市でもマウンテンバイクで走行可能なフィールドはありますが、現状はマウンテンバイクが走行できる道として整備されておらず安全面の課題があります。また、林道に関しては、管理者との調整も必要となります。

なお、スキー場のグリーンシーズンの活用策として、他地域ではマウンテンバイクを展開している例も見られます。本市では、ひめかゆスキー場が2021年度で閉鎖されており、センターハウスやリフトが残ったままの状態となっています。スキーのゲレンデは傾斜が強く、そのまま使用するとスピードの制御が難しいですが、路面に過度な凹凸もないことからマウンテンバイク用のコースを設定することで活用が可能となります。ダウンヒルのコースとなるため、スタート地点はゲレンデ頂上付近が適切です。ゲレンデ横の林道を活用すれば、ゲレンデ下から頂上付近まで車体と利用者を運ぶことが可能となります。また、現在利用されていないセンターハウスは、レンタル用の車体やヘルメット等の備品を保管する倉庫やメンテナンスルーム、利用者の休憩スペースとして活用可能です。



旧ひめかゆスキー場のセンターハウス、ゲレンデの様子

<参考事例：富士見パノラマリゾート／長野県富士見町>

スキー場として有名な富士見パノラマリゾートは、スノーシーズン以外(4月下旬～11月上旬頃)はマウンテンバイクのダウンヒルコースが出現します。マウンテンバイクは持ち込みだけでなくレンタルも可能で、ゴンドラやリフトを使って山頂まで上がることができます。コースは初級から上級まであり、マウンテンバイクに初めて乗る方をはじめ、幅広い世代が楽しめるスポットになっています。



3) ジップライン

閉鎖されたひめかゆスキー場の活用策としてジップラインも検討可能です。ジップラインは、ワイヤーロープ上に滑車を取り付けて滑り降りるアクティビティです。動力を使わず、傾斜を利用して自重だけで移動できるように設計されており、高低差のあるスキー場のような地形は適しています。グリーンシーズンのスキー場活用策として、全国各地で導入している事例が見られます。

<参考事例：斑尾高原／長野県飯山市)>

標高1,000mにある斑尾高原は、ウィンターシーズンはスキー場として人気ですが、グリーンシーズンも様々なアクティビティやキャンプを楽しむことができるフィールドです。特に、スキー場を横断するように設営されたジップラインは全11コースとバリエーションが豊かです。空中を滑空するアクティビティのため、トレッキングやキャンプなど、地上のアクティビティと住み分けができています。



4) 自然観察（バードウォッチング、星空観察など）

バードウォッチング（野鳥観察）は気軽にできる自然体験として昔から人気がありますが、近年では、スマートフォンアプリの登場やインスタグラムのような写真系SNSの影響もあり、若い世代の間でも人気が出てきていると言われています。本市でも多くの野鳥を見ることができますが、バードウォッチングイベントを行っている事業者や団体はなく、市内で見られる野鳥の情報はほとんど発信されていません。



バードウォッチングに限らず、自然豊かな本市では、川や湖、山、里で様々な生物を観察することができ、夜には、過去星空日本一に輝いたこともある満点の星空を観察することができます。

このような自然資源を活かした体験プログラムを商品化していくことで、より広いターゲットへの提案が可能となります。また、専門のガイドによるイベントを定期的で開催することで、本市のフィールドを取り巻く自然環境や生物との関係性を楽しく学ぶ環境教育への効果も期待できます。



【アウトドアアクティビティと自然観察プログラムを組み合わせたメニュー例】

例1) トレッキング+バードウォッチング

種山ヶ原森林公園でトレッキングをしながら野鳥観察を楽しむプログラムです。ガイドの養成やレンタル用の双眼鏡など観察備品を整備する必要があります。

例2) カヌー+地形観察&バードウォッチング

奥州湖でカヌーを漕ぎながら猿岩の柱状節理など湖岸の地形・地質を観察するとともに、湖面からのバードウォッチングを楽しむプログラムです。ガイドの養成やレンタル用のカヤック、双眼鏡などの観察備品を整備する必要があります。



例3) トレッキング&自然観察+キャンプ&星空観察

つぶ沼キャンプ場を拠点に、日中は焼石岳山麓でトレッキングをしながら動植物の観察、夜はキャンプと星空観察イベントを組み合わせたプログラムです。ガイドの養成やレンタル用のキャンプ備品、観察備品、天体観測備品を整備する必要があります。

